

7 短節間カボチャ「おいとけ栗たん」の栽植方法検討試験

背景と目的

短節間性を有する「おいとけ栗たん」は、昨年度の慣行栽培（えびす）と比較した調査結果から、整枝等を省略する省力栽培が可能であり、かつ、密植することにより高い収量性を持つ有望品種と考えられました。このため、本品種の短節間性を生かした栽植方法や省力化資材として生分解性マルチの有効性について検討しました。

（関係先） J Aあさひかわ，市内カボチャ生産者

試験方法

（1）供試品種

品種名	育苗	整枝管理
おいとけ栗たん(渡辺採種場)	72穴セルトレイ	無整枝放任

（2）試験区の設定

試験区		マルチ種類（色）	栽植密度
1条植区		ポリエチレンマルチ (ダークグリーン)	畝幅 300cm×株間 40cm 833株/10a
2条植	農ポリ区	ポリエチレンマルチ (ダークグリーン)	畝幅 300cm×株間 50cm 1,333株/10a
	生分解区	生分解性マルチ（黒）	

（3）耕種概要

- ・播種日： 6月1日
- ・定植日： 6月11日
- ・作型： 露地マルチ栽培
- ・施肥量：(kg/10a)

肥料の種類	施用量	成分量	備考
エコロンG 250-40	10.0	N : P : K = 2.0 : 0.5 : 1.0	メーカー推奨でえびす（タキイ種苗）より2割減
N S 604	27.1	N : P : K = 4.3 : 2.7 : 3.8	

1条植区



2条植農ポリ区



2条植生分解区



図 各試験区の様子（8月20撮影）

試験結果

(1) 収穫方法

- ・カボチャのヘタ（果梗部）のコルク化状況等を見ながら、順次、収穫作業を実施
- ・収穫果実は、市内加工業者の受入規格を参考にした基準（果実の直径 16cm 以上、傷や日焼けの程度が一定基準以下など）に基づき、良果及び不良果に選別

(2) 収穫調査結果

○栽植方法の違いによる比較

総個数及び総収量は、2条植農ポリ区が1条植区を上回り、良果個数及び良果収量についても同様でした。平均着果数は、1条植区が2条植農ポリ区を上回り、平均一果重は、両区に差はありませんでした。

○マルチの違いによる比較

総個数及び総収量は、2条植農ポリ区が2条植生分解区を上回り、良果個数及び良果収量についても同様でした。平均着果数及び平均一果重は、2条植農ポリ区が2条植生分解区をやや上回りました。

表 収量調査結果

試験区	総個数(個/10a)			総収量(kg/10a)			平均着果数 (個/株)	平均一果重 (kg)
	良果	不良果	計	良果	不良果	計		
1条植区	584	416	1,000	1,157	549	1,706	1.2	1.7
2条植 農ポリ区	917	333	1,250	1,836	342	2,178	0.9	1.7
2条植 生分解区	709	416	1,125	1,445	372	1,817	0.8	1.6

考 察

○栽植方法の検討

1条植（栽植密度 833 株/10a）と2条植（栽植密度 1,333 株/10a）との収量比較では、栽植密度が高い2条植区が上回り、改めて密植栽培が有効であることが分かりました。

○生分解性マルチの有効性

上記の収量調査では、ポリエチレンマルチを使用した試験区は、収量等において、生分解性マルチを上回りました。これは、本試験において、生分解性マルチを使用した試験区に、生育不良株が見られたことなどから、マルチの色規格において、黒色はダークグリーンに比べて、初期の地温確保が難しく、その後の生育に影響を及ぼした可能性があります。

また、生分解性マルチは、収穫後、トラクターによるすき込みで片付けが終了する利点があるため、収量性だけでなく、省力性やコスト面を含めた検討が必要と考えられました。